

静岡の原風景 「富士山南麓の茶園」

● 受賞者 ● 富士市農業協同組合茶業部会



茶園と富士山

富士山南麓地域では明治時代初期より茶の栽培が行われ、昭和30年代から40年代にかけて機械化の進展により栽培地域が大きく広がりました。

茶園は、標高100m～350m付近に多く見られ標高600m近くまで分布しているのが特徴です。富士市は県内の主要茶産地の一つであり、富士山の自然に育まれた良質なお茶を全国に送り出しています。

この地域は富士山の眺望が素晴らしく、撮影ポイントとして有名で、特に4月～5月の新茶が芽吹く季節には、県内外から多くのカメラマンが訪れます。

静岡の代名詞である「お茶」と「富士山」の組み合わせは、各種ポスターにも使用されるなど、まさに静岡を象徴する景観です。



茶摘風景



アクセス
東名高速道路 富士I.Cから車で10分
所在地: 富士市大淵、今宮